

# エネルギーとお金を使わないで得る豊かさ 非電化工房の取り組み

藤村靖之

那須町にある非電化工房の敷地内で採れるタケノコは美味だ。しかし、放射能汚染度は1キロ当たり190ベクレル。安心して食べられるのは数十年先だ。福島第一原発事故で受けた傷はいまだに癒えない。

アインシュタインは、こう言ったそうだ。「狂気。それは、同じことを繰り返しながら、違う結果を望むこと」と。原発再稼働のニュースを聞いた時に、この言葉を痛切に思い起こす。

アインシュタインはこうも言った。「ある問題を引き起こしたのと同じマインドセット（心の枠組み）のままで、その問題を解決することはできない」と。

地球温暖化をはじめとする深刻な環境危機を前に、しかし、僕たちはいまだに、その危機を引き起こしたのと同じマインドセットのままで、問題が解決できるかのように思い込み、ふるまっている。

化石燃料がだめなら原子力で、原子力が危険ならメガ・ソーラーで、食糧危機なら遺伝子組み換えで、「経済成長」が問題なら「持続可能な成長」で……という具合だ。

こう考えると、悲観的な気持ちになりそうだが、やれることがタクサンあるのだから、絶望するのは、まだ早い。

例えば、「幸せ度を倍増して、電力消費量を半減する」。具体的なアイデアを、この連載コラムでスコシ紹介したが、タクサンは提案できなかった。

機会があったら、那須町の非電化工房に来ていただきたい。

そして、「エネルギーとお金を使わないでも得られる豊かさ」を実感していただきたい。

2016年6月24日 東京朝刊・栃木版（とちぎの風）藤村靖之「エネルギー使わず幸せに」より。

\* \* \* \* \*

この文章は、朝日新聞栃木版に掲載された藤村氏のエッセイからの転載で、講演当日に資料として配布されたものです。藤村氏が主宰されている非電化工房のHP：<http://www.hidenka.net/indexj.htm>